

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立東小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
<b>学びのサイクル(津山モデル)</b> ①授業改善と家庭学習をつなぐ ②つまずき解消	(総括)学力向上担当 ①各担任 ②各担任 (環境整備)研究推進部	①言語活動(特に書くこと)を取り入れた授業の充実 ・書く活動を意識した取り組みの実施 ・授業につながる家庭学習 ②的確につまずきを把握する。 ・学び直しの環境整備	12月(中間) 2月(最終) ☆年間を通じて	①学年団・OJTによる日常的な確認と校内授業公開による確認 ・週末課題(前学年や既習事項の振り返り課題・作文・日記等)による確認 ②原則金曜日に実施する確認テストで把握・確認 ・算数ルームのプリントコーナーや弱点克服プリントの活用 ・放課後補充学習の活用	①家庭学習に取り組む児童の割合が90%以上。 ・本校実施のアンケートで、「自分の言葉で説明などを書くことができる」と回答できる児童が80% ②各学年の課題である領域の基礎的な課題については、正答率が80%以上。
<b>生活習慣の改善</b> スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	各担任	①スマホの利用について家庭でルールを決める。 ②スマホについての啓発を行う。	年間を通じて	①学級懇談で、保護者同士がスマホの利用について、家庭のルールがどうなっているかを話し合ってもらったり、DVDを見てスマホの利用の仕方について考えてもらう。 ②専門家に依頼し、非行防止教室や出前授業などで保護者や子どもたちにスマホの利用について考えてもらう。	スマホやゲーム等の使用している時間を2時間以下の児童を30%以下にする。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
全国 ○国語と算数のどちらとも正答率は県平均・全国平均を上回った。 ○国語では、読む領域の問題(本校90%、全国81.7%)、算数では、数と計算領域(本校71.7%、全国63.2%)が大きく上回っている。 特に、「選んだ本の目次から、読むページとして適切なものを選択する問題」本校98%(全国81.3%)、「水の使用量の棒グラフから読み取って書く問題」本校90%(全国78.6%) ●国語では記述式の問題、算数では量と測定(本校54%、全国52.9%)と図形(本校76%、全国76.7%)に課題が見られる。 特に、「公衆電話について調べたことを【報告する文章】に、わかったことをまとめて書く」本校42%(全国28.8%)、「減法の式が、示された面積をどのように求めているのかを数や演算の表す内容に着目して書く」本校38%(全国43.9%) 県 ○3・5年生では、国語・算数とも平均を上回っている。しかし、4年生では平均をやや下回った。 ○国語では読む・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(3年:本校91.5% 全国80.9% 4年:本校74% 全国71.4% 5年:本校80.8% 全国79.2%)、算数では数と計算(3年:本校86.5% 全国80.5% 5年:本校75.9% 全国73.9%)が全国・県平均を上回っている。 ●国語では書くこと・記述式(4年:本校47.4% 全国54.7% 5年:本校59.5% 全国62.3%)、算数では図形(4年:本校68.3% 全国81.2% 5年:本校53.6% 全国53%)量と測定(4年:本校64.1% 全国76.0%)に課題が見られる。	○家庭での学習時間(1時間以上)の割合(本校88%、全国66.1%)が上回っている。 また、前年度は平均を下回っていた「計画を立てて勉強をしている」(本校74%、全国73.3%)の割合が全国と同等になった。 ●平日のスマホやゲームの使用時間・テレビの視聴時間が県平均に比べて、2時間以上使用している割合が高かった。 ○自分には良いところがある(本校80%、県82.5%)、あなたの良いところを認めてくれますか(本校80%、県89.2%)の自己肯定感の割合が低い。 ○1日当たり30分以上読書をする割合が県・全国の割合を大きく上回っている。(本校58%、県40.3%、全国39.8%)

成果	課題
○経年比較すると、4年の算数を除いて、全国平均と同程度である。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、前年度は課題が見られたが、朝学習などで意識的にことわざや辞書の引き方・言葉の使い方に取り組んだことで平均を上回ることができた。 ○数と計算は、問題データベース等を活用し、様々な基礎的問題にくり返し取り組み、全国・県の学力調査の正答率が80%以上になっている。	○主語述語の関係を意識して書いたり、自分の考えをまとめて書いたりするなど、「書くこと」に課題が見られる。 ○算数では、数学的な考えを問われている問題に対して課題が見られる。 ○自己肯定感が低い児童の割合が高いので、授業・生活の中で高める取り組みを考えていく必要がある。 ○スマホ・ゲーム・テレビの視聴時間を減らしていき取り組みが必要である。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月未現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
書く力の育成	12月・3月	全児童を対象に ・補充学習で国語・算数の類似問題を実施(正答率80%) ・自分の言葉で、授業のまとめや振り返りを書くことができる。(毎学期のアンケートで肯定的な児童が80%)	・条件付き短作文や日記、まとめなどを書く機会を増やす。 (問題データベース活用、週末課題) ・ことばのきまりを意識・活用した授業づくり					
スパイラルで確認できる環境	今年度末	全児童を対象に ・毎週金曜日に週末課題に取り組み ・秋の確認テストで改善状況の確認	・既習事項の定着を図るために →前学年の問題・既習問題を週末課題に出す →層成や壁面に算数の用語を掲示 →算数ルームにプリントコーナーを設置 →週末に確認テストを実施する。					
家庭学習の定着と充実	今年度末	・家庭学習時間(学年×10+10)が学校全体の85%以上できるようにする。 ・家庭学習の提出率を90%にする。	・定期的に提出率を調査する。 ・自主学習ノートの活用(内容充実のために参考となるノートを玄関ホールに掲示したり、学級で紹介したりする。)					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○津山モデル学区として歩調をそろえてPDCAを循環させる。 ○小中の系統的指導について研修を深め、今後の指導に生かすために、中学校区で授業参観をしたり研修をしたりする。 ○義務教育9年間の連続性のある指導の研究、取り組みの交流をする。(生活目標「時を守り 場をきれいにし 礼を尽くす」や学習規律など) ○「家庭教育のすすめ」に基づく実践交流・実践計画をおこなう。	○学年始めや学期始めに家庭学習の手引き・学習スタンダードを保護者に配布し、家庭でも学校とベクトルを合わせて指導していただけるよう協力をお願いする。 ○学級懇談会などの機会を使って、テレビやスマートフォンなどの視聴時間、ゲームの使用時間の実態を知らせ、削減や使用方法について保護者に呼びかける。 ○学校支援ボランティア事業で、学習・環境・安全支援で地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぎ、地域の中の学校として一緒に子どもを育てていく。